

東京都住宅供給公社定款

昭和41年3月23日認可

改正 平成 元年 3月31日認可 (い) 平成13年 1月31日 (ろ)
平成18年 3月28日認可 (は) 平成19年 9月25日認可 (に)
令和 5年 4月11日認可 (ほ) 令和 7年 9月16日認可 (へ)

第1章 総則

(目的)

第1条 この地方公社は、住宅を必要とする勤労者に対し、住宅の積立分譲等の方法により居住環境の良好な集団住宅及びその用に供する宅地を供給し、もつて住民の生活の安定と社会福祉の増進に寄与することを目的とする。

(名称)

第2条 この地方公社は、東京都住宅供給公社と称する。

(設立団体)

第3条 この地方公社の設立団体は、東京都とする。

(事務所の所在地)

第4条 この地方公社は、事務所を東京都渋谷区に置く。

(公告の方法)

第5条 この地方公社の公告は、官報及び東京都公報に掲載して行う。(は)

第2章 役員・職員等

第1節 役員及び職員

(役員)

第6条 この地方公社に、役員として、理事長1名、理事9名以内及び監事2名以内を置く。

2 理事のうち1名を副理事長とすることができる。(へ)

3 理事のうち7名以内は常勤とする。(ほ)

(役員職務及び権限)

第7条 理事長は、この地方公社を代表し、その業務を総理する。

2 副理事長は、規程で定めるところにより、理事長を補佐してこの地方公社の業務を掌理し、理事長に事故があるときはその職務を代理し、理事長が欠けたときはその職務を行う。

3 副理事長以外の理事は、規程で定めるところにより、理事長及び副理事長を補佐してこの地方公社の業務を掌理する。

4 副理事長以外の理事は、理事長があらかじめ指定した順序により、理事長及び副理事長に事故があるときは理事長の職務を代理し、理事長及び副理事長が欠けたときは理事長の職務を行う。(ろ)

5 監事は、この地方公社の業務を監査する。

6 監事は、監査の結果に基づき、必要があると認めるときは、理事長又は国土交通省関東地方整備局長若しくは東京都知事に意見を提出することができる。(ろ)

(役員の内命)

第8条 理事長及び監事は、東京都知事が任命する。

2 理事は、理事長が、任命する。

(役員の内期)

第9条 理事長及び理事の内期は3年、監事の内期は2年とする。ただし、補欠の役員の内期は、前任者の残任内期とする。

2 役員は、再任されることが出来る。

(役員の内兼任の禁止)

第10条 理事長又は理事は監事を、監事は理事長又は理事を兼ねることが出来ない。

(職員の内命)

第11条 職員は、理事長が任命する。

(兼職の禁止)

第12条 常勤の役員及び職員は、営利を目的とする団体の役員となり、又はみずから営利事業に従事してはならない。(ほ)

第2節 理事会

(理事会の内設置及び構成)

第13条 この地方公社に理事会を置く。

2 理事会は、理事長及び理事をもつて構成する。

(理事会の内招集)

第14条 理事会は、理事長が必要と認めるときに招集する。

2 理事又は監事から会議の目的たる事項を附して要求があつたときは、理事長は理事会を招集しなければならない。(へ)

(理事会の内議事)

第15条 理事会の内議長は、理事長をもつてこれにあてる。

2 理事会は、理事の内過半数が出席しなければ開くことが出来ない。

3 理事会の内議事は、この定款に特別の内定めがある場合のほか、出席理事の内過半数をもつて決し、可否同数のときは、議長の内決するところによる。

4 前項の内決議について特別の内利害関係を有する理事は、議決に加わることが出来ない。

(へ)

5 理事長が必要と認めた場合において、次条第1項に定める事項の案につき理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該事項の案につき異議を述べたときを除く。）は、当該事項の案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。(へ)

6 監事は、理事会に出席して意見を述べることができる。(へ)

(理事会の議決事項)

第16条 次に掲げる事項は、理事会の議決を経なければならない。

一 定款又は業務方法書の変更

二 基本財産たる財産の変更

三 毎年度の予定貸借対照表、予定損益計算書及び決算

四 地方住宅供給公社法（昭和40年法律第124号）に基づき東京都知事に提出する事業計画、資金計画、財務諸表及び業務報告書

五 規程の制定又は改正若しくは廃止

六 規程により理事会の権限に属せしめられた事項

七 その他この地方公社の運営上理事長が重要と認める事項

2 前項第1号又は第2号に掲げる事項については、出席理事の3分の2以上の決するところによる。

第3節 評議員会

(評議員会の設置及び構成)

第17条 この地方公社の適正な運営を図るため、評議員会を置く。

2 評議員会は、評議員20名以内をもつて構成する。

(評議員の委嘱)

第18条 評議員は、理事会の推せんを得て理事長が委嘱する。

(評議員の任期)

第19条 評議員の任期は、2年とする。ただし、補欠の評議員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 評議員は、再任されることができる。

(評議員会に対する諮問事項)

第20条 評議員会は、理事長がこの地方公社の運営上重要と認める事項について、理事長の諮問に応ずる。

(評議員会の招集及び運営)

第21条 評議員会は、理事長が招集する。

2 評議員会は、評議員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 評議員会の議長は、評議員の互選により定める。

第3章 業務及びその執行

(業務の範囲)

第22条 この地方公社は、第1条の目的を達成するため、次の業務を行う。(は)

- 一 住宅の積立分譲を行うこと。(は)
- 二 住宅の建設、賃貸その他の管理及び譲渡を行うこと。(は)
- 三 住宅の用に供する宅地の造成、賃貸その他の管理及び譲渡を行うこと。(は)
- 四 市街地においてこの地方公社が行う住宅の建設と一体として商店、事務所等の用に供する施設の建設を行うことが適当である場合において、それらの用に供する施設の建設、賃貸その他の管理及び譲渡を行うこと。(は)
- 五 住宅の用に供する宅地の造成とあわせて学校、病院、商店等の用に供する宅地の造成を行うことが適当である場合において、それらの用に供する宅地の造成、賃貸その他の管理及び譲渡を行うこと。(は)
- 六 この地方公社が賃貸し、又は譲渡する住宅及びこの地方公社が賃貸し、又は譲渡する宅地に建設される住宅の居住者の利便に供する施設の建設、賃貸その他の管理及び譲渡を行うこと。(は)
- 七 前各号に掲げる業務に附帯する業務を行うこと。(は)
- 八 水面埋立事業を施行すること。
- 九 地方公共団体の委託等により公営住宅等の管理に関する業務を行うこと。(い)(は)
- 十 公営住宅法(昭和26年法律第193号)に基づき公営住宅又は共同施設の管理の一部について事業主体に代わって行うこと。(へ)
- 十一 前各号に掲げる業務の遂行に支障のない範囲内で、委託により、住宅の建設及び賃貸その他の管理、宅地の造成及び賃貸その他の管理並びに市街地においてみずから又は委託により行う住宅の建設と一体として建設することが適当である商店、事務所等の用に供する施設及び集団住宅の存する団地の居住者の利便に供する施設の建設及び賃貸その他の管理を行うこと。(い)(は)(へ)

(業務方法書)

第23条 この地方公社の運営に関し必要な事項は、この定款に定めるもののほか、業務方法書の定めるところによる。

第4章 基本財産の額その他資産及び会計

(資産)

第24条 この地方公社の資産は、基本財産及び運用財産とする。

2 この地方公社の基本財産の額は、1億500万円とし、東京都の出資の額は、次のとおりとする。

東京都 1億500万円

3 基本財産は、安全、かつ、確実な方法により管理するものとし、これをとりくずしてはならない。

(事業年度)

第25条 この地方公社の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(会計区分)

第26条 この地方公社は、住宅の積立分譲契約に基づく受入金に係る会計と他の業務に係る会計とを区分して経理する。

2 前項の他の業務に係る会計においては、内訳として積立分譲住宅勘定、一般分譲住宅勘定、賃貸住宅勘定、分譲宅地勘定、賃貸宅地勘定、その他必要な勘定に区分する。

(決算)

第27条 この地方公社は、毎事業年度の決算を翌年度の5月31日までに完結しなければならない。

(財務諸表及び業務報告書)

第28条 この地方公社は、毎事業年度、前事業年度の決算完結後すみやかに財務諸表を作成し、監事の監査を経て東京都知事に提出する。

2 この地方公社は、前項の規定により財務諸表を提出するときは、これに、国土交通省令で定める事項を記載した当該事業年度の業務報告書を添付し、並びに財務諸表及び業務報告書に関する監事の意見をつける。(ろ)

(利益及び損失の処理)

第29条 この地方公社は、第26条第1項の会計区分に従い、毎事業年度の損益計算上利益を生じたときは、前事業年度から繰り越した損失をうめ、なお残余があるときは、その残余の額は、準備金として整理する。

2 この地方公社は、第26条第1項の会計区分に従い、毎事業年度の損益計算上損失を生じたときは、前項の規定による準備金を減額して整理し、なお不足があるときは、その不足額は、繰越欠損金として整理する。

(余裕金の運用)

第30条 この地方公社は、次の方法によるほか、業務上の余裕金を運用してはならない。

- 一 国債、地方債その他国土交通大臣の指定する有価証券の取得(ろ)
- 二 銀行その他国土交通大臣の指定する金融機関への預金(は)(に)
- 三 その他国土交通省令で定める方法(は)

第5章 雑則

(規程への委任)

第31条 この地方公社の運営に関し必要な事項は、この定款及び業務方法書に定めるもの

のほか、規程の定めるところによる。

附 則

(施行期日)

- 1 この定款は、財団法人東京都住宅公社がこの地方公社への組織変更の日から施行する。
(最初の役員任期)
- 2 この地方公社の最初の役員任期は、第9条の規定にかかわらず、それぞれの任命権者が定める。
(最初の事業年度)
- 3 この地方公社の最初の事業年度は、第25条の規定にかかわらず、この地方公社への組織変更の日の翌日から昭和42年3月31日までとする。

附 則 (い)

- 1 この定款は、平成元年4月1日から施行する。
- 2 第6条に定める役員数は、同条の規定にかかわらず、平成2年3月31日までは、第1項の理事については12名以内及び監事については3名以内とし、第2項の副理事長については2名とし、第3項の理事については10名以内及び監事については2名とする。

附 則 (ろ)

この定款は、平成13年1月31日から施行し、改正後の東京都住宅供給公社定款の規定は、平成13年1月6日から適用する。

附 則 (は)

この定款は、平成18年4月1日から施行する。

附 則 (に)

この定款は、平成19年10月1日から施行する。

附 則 (ほ)

この定款は、令和5年5月1日から施行する。

附 則 (へ)

この定款は、令和7年10月1日から施行する。